

通貨ニュース(2014 年 7 月 11 日)

マレーシアは約 3 年ぶりの利上げ～年内追加利上げの可能性～

3 年ぶりの利上げ

バンク・ネガラ・マレーシア(BNM、中央銀行)は 7 月 10 日に開催した金融政策委員会(MPC)において、政策金利である翌日物政策金利(OPR)を 25bp 引き上げて 3.25%とすることを決定した。BNMは 2011 年 5 月の MPC で 25bp 利上げして以来 OPR を 3.00%に据え置いてきたが、3 年 2 か月ぶりの利上げを決めた。

国際為替部
多田出 健太
03-3242-7065
kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

BNM は 5 月 8 日に開いた MPC 後の声明で「経済・金融の不均衡拡大に対応するため、金融緩和の度合いを調整する必要があるかもしれない」として、金融引き締めの可能性を示唆していた。ブルームバーグのエコノミスト調査では、21 人中 15 人が利上げを予想し、6 人は政策金利据え置きを見込んでいた。筆者は直近のマレーシア 5 月消費者物価指数(CPI)が小幅鈍化したことで、9 月 18 日開催予定の次回 MPC まで様子見するとみていたが、BNM は利上げに踏み出した。

今回の声明では利上げについて、「安定した成長見通しと長期平均を上回り続けるインフレ」が背景であると説明し、「今回の金融状況の正常化はまた、マレーシア経済の成長見通しを損ないかねない広範な経済・金融の不均衡のリスクを軽減することも狙いとしている」と表明した。そして、「(利上げ後の)新たな OPR の水準でも、金融政策スタンスは引き続き景気支援に繋がる」と記した。

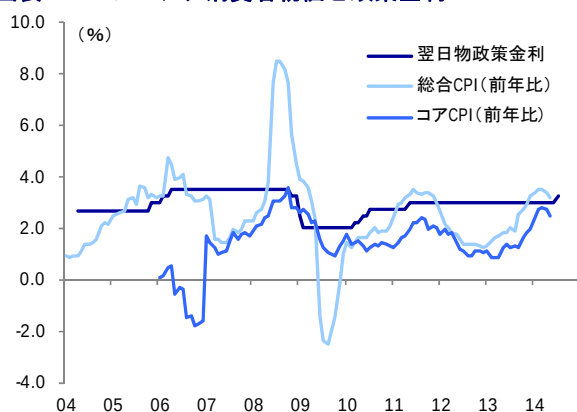
年内追加利上げの可能性

フィリピン中央銀行(BSP)は、2 回の預金準備率の引き上げに次いで、6 月 19 日の政策決定会合では、特別預金口座(SDA)金利を 25bp 引き上げた。SDA 金利は実質的に政策金利の役目を果たしており、金融引き締め方向に舵を切っている¹。

フィリピンと同様、成長見通しが明るいマレーシアではインフレと金融安定に関するリスクが高まっている。BNM は声明で「金融緩和度合いの更なる評価は国内の成長とインフレ見通しを取り巻くリスクバランスに対する MPC の判断に依存する」としたほか、「同時に、金融不均衡の不安定化リスクを注視する」と示している。マレーシアのナジブ首相は 6%の物品・サービス税(GST)を 2015 年 4 月に導入すると発表しており、これはインフレ率の上昇に結びつくほか、年後半から来年初にかけては駆け込み需要が生じるとみられる。MPC は年内残すところ 9 月と 11 月の 2 回となったが、年内最後の MPC にて追加で 25bp の利上げを予想する。

¹ 2014 年 6 月 20 日付通貨ニュース『フィリピン中銀は実質的な利上げへ』をご参照下さい。

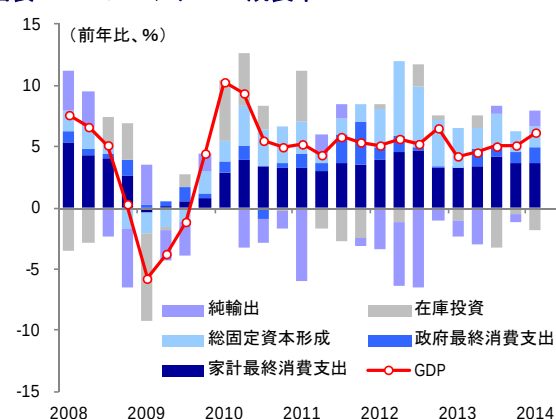
図表 1：マレーシア消費者物価と政策金利



(注)2005 年以前の CPI は 2005 年基準を接続。

(資料) マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 2：マレーシア GDP 成長率



(資料) マレーシア統計局、CEIC

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。